

平和のよるゝび展

戦争を物語る遺品と守山空襲展

平和の尊さを次世代へ語り継ぐために、戦争体験者の遺品や手紙、写真、資料などを展示します。今年は、守山空襲を体験した人の証言や写真、資料などで当時の様子を紹介する特別展示「守山空襲」も同時開催します。

時 7月30日(木) 8月7日(金) 前9時〜午後5時(最終日は正午まで、火曜日休館)
所 市民ホール 展示室
料 無料



守山空襲とは

昭和20年7月30日、守山はアメリカ軍の戦闘機によって空襲を受けました。守山駅を発車する列車が狙われ、列車の乗客や駅周辺の人々が犠牲になりました(死者11人、負傷者22人)。

関人権政策課
 ☎・☎(582)1116
 ☎(582)0539

佐川美術館
アートコラム③

2人の巨匠が描いた滋賀の風景
〜東海道五十三次〜



学芸員・藤井 康憲
佐川美術館

切手や「お茶づけ海苔」のおまけでもおなじみの浮世絵師・歌川 広重(1797-1858)が描いた「東海道五拾三次」。

そもそも東海道とは江戸と京都を結ぶ主要な交通路で、街道は参勤交代の行列や伊勢詣での旅人など人々の往来が多く、にぎわいを見せていました。広重はその風景を描いたのです。東海道筋の自然と旅の風物が叙情的に描かれ、当時の庶民たちの旅への憧れをかきたてたことでしょう。

東海道には五十三の宿場町が設けられたのですが、このうち大津、草津、石部、水口、土山の5つの宿場町が滋賀県に位置します。この地が京都に到達するまでの最後の交通の要衝地であったことが分かります。

広重は水口で当時名物とされていた干瓢(かんぴょう)づくりの光景や、大津の走井茶屋のにぎわいなどを描いており、作品から当時の滋賀県の風俗を知ることができるのです。

また、同じく東海道を旅して、どこか懐かしい気持ちを彷彿とさせる情景を描き上げたのが「放浪の画家」として知られる山下清(1922-1997)です。山下も1964年から5年をかけてスケッチの旅を続け、遺作となる「東海道五十三次」全55点を制作しました。「ゆつくり旅ができるのならやってもいいな」といいます。山下も滋賀を訪れた際、大津の瀬田唐橋や草津の姥ヶ餅屋(うばがもち)の風景を記録に留めています。

2人の巨匠が描いた日本の原風景を、ぜひ当館にてご覧ください。

※開館情報につきましては、ホームページでご確認いただくか電話☎(585)7800]でお問い合わせください。

スポーツ協会からのお知らせ

初心〜初級テニス教室

時 8月29日〜10月3日の毎週土曜日午後7時〜9時(全6回) **所** 市民運動公園テニスコート **定** 先着40人
対 市内在住、在勤、在学で小学3年生以上の人 **料** 4,800円/人(小学3年生〜中学1年生は3,600円/人、保険料含む)
申 8月22日(土)までに参加料を添えて守山市スポーツ協会事務局へ申し込み **他** 小学生は保護者の署名、捺印要

第51回ほたるのまち守山ハーフマラソンを中止します

新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、参加者・関係者の健康と安全を第一に考え、やむなく開催を中止します。

関守山市スポーツ協会事務局(市民体育館内) ☎・☎(583)3113 ✉jimukyoku@sports-moriyama.net
 火曜日と祝日の翌日を除く 午前9時〜午後5時